



2年学年だより

発行日:令和7年12月 25 日(木)

発行者:横浜市立南高等学校附属中学校

学校長:二上 直子 NO. 8



活動中の中学 1 年生

演劇ワークショップを通して



MINAMI

校長代理 中澤 務

附属中 1 年生 演劇ワークショップ

11 月から 12 月にかけて、附属中 1 年生が 3 回にわたり演劇の活動に取り組みました。動物や食べ物を身体で表現することから始まり、前の人がとった動きに合わせてジェスチャーを続けていくなど、様々な活動を重ね、最終的にはグループでミニ演劇を作りあげました。

今回、授業を担当してくださった講師、アーティストの大道朋奈さん、アシスタントの伊藤恭平さん、オカダエミさん、そして今回のプログラムをコーディネートしてくださった ST スポット横浜の田中真実さんにお話を伺い、附属中学生の様子や演劇について語っていただきました。

演劇の仕事に取り組む

中: まず、皆さんが「演劇の仕事」を始めたきっかけを教えてください。

大: もともととは小劇場で俳優をしていました。でも、競争や人間関係の難しさもあり、どう演劇を続けていこうか悩んでいたんです。そんなとき、ある市民劇に参加し、出演者同士が考えを出し合いながら作品をつくる“集団創作”という手法に出会いました。とても風通しがよく、「こういうかたちの演劇なら続けていきたい」と感じました。演劇を通して社会に関わっているんだと実感をもてる、そんなファシリテーターの仕事に繋がっています。

オ: 私は大学生の時、ワークショップのファシリテーター養成講座に参加したのが出発点です。「バイトをしたい」と先生に相談したら、ファシリテーター養成講座を勧めてもらえて、今があります。演劇をやって社会に貢献、人のためになっている実感があるのがワークショップの魅力です。正解のないことに自分たちで答えを作り出す、その時間が好きなんです。

伊: 高校生の頃に演劇を観に行くのが好きになり、「もっと学びたい」と思って大学で応用演劇を学びました。演劇を使って社会の課題に取り組む授業を受けたのが、今の道を選ぶきっかけです。大学の先生の紹介で世田谷パブリックシアターに関わり、今は制作の仕事をしたりしています。「考える」「感じる」を深めることができるのが演劇の面白さですね。

附属中生徒の様子

中：昨年から本校に来ていただいておりますが、附属中の生徒の様子はいかがですか。

大：とにかく、はつらつとしていますね。真摯に課題に向き合う姿勢は、大人が心配になってしまうくらい。葛藤や悩みもきっとあると思いますが、「こんな大人もいるよ」という一つの見本になればいいなと思いますながら接していました。

オ：素直さが印象的です。思春期の入り口で、人前で表現するのは勇気がいるはずなのに、よく頑張って向き合っているな、と。「この授業の目的は？」と考える生徒もいて、すごいなあと思いました。演劇じゃなくても、人前で話したり、正解のない課題に挑戦したりする“入口”になってくれれば嬉しいです。

伊：誰かのアイデアを素直に受け止められる人たちだと思う。(適性検査を経て)同質性が高い環境だと、息苦しく感じる人もいるかもしれないのに、ここでは柔らかい雰囲気がありました。学校の外につながるきっかけとして、演劇でも音楽でも何でもいい。外に開く扉になってくれればいいなと思います。

中：授業を3回通して見えてきたことはなにかありますか？

伊：相談しながらひとつのものをつくろうとする表情がとても印象的でした。いいアイデアを受け入れたり、工夫を重ねたり、明るい表情が増えていったように思います。

オ：「桃の形をどうする？」といった、正解のない課題にもだんだん慣れてきましたね。知識を覚える授業とはまったく違うチャンネルを使うと思うんですけど、切り替えが上手になっていくのを感じました。感想を言ってくれた人もとってもよかった！みんなの工夫を認め合う姿ですね。

大：回と回の間が1か月空いたので、うまくいかないこともあったと思います。でも、それも“寄り道をしながらつくる”演劇の大事なプロセスです。最初にもっていた「やりたい」という気持ちを、またもち帰って来てくれたのが嬉しかったですね。

学校で芸術文化を学ぶ意味

中：なんかとってもいいお話が聞けて嬉しいです！最後に、学校で芸術文化を学ぶ意味についてちょっとまとめていただけませんか。田中さんどうですか？

田：私は子どもには「芸術に触れる権利」があると思っています。芸術文化だからこそ、その人自身と向き合える瞬間があります。学校の中には、まだ芸術に出会えていない子もいる。だからこそ、こうしたプログラムがもっと身近になってほしい。役割や学歴ではなく、“その人として出会う”ことができるのが芸術の力です。

中：“その人として出会う”か。僕も最近肩書きを通してしか人と関わっていないかもしれない。耳が痛いです。皆さんありがとうございました。ついつい長々とおしゃべりしちゃいましたね。申し訳ありませんでした。

冬休み中の学校閉庁期間のお知らせ

本校では12月29日(月)～1月4日(日)は学校閉庁期間(学校として対外的な業務は行わない日)です。校舎内には基本的に入れません。また、すぐ一でご連絡いただいた場合にも、ご対応は1月5日(月)以降となりますので、ご承知おきください。

本年も残すところわずかとなりました。保護者のみなさまには、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。生徒たちは、学習や行事を通して多くの経験を積み、心身ともに大きく成長しました。新しい年も、生徒が夢や希望を持ち、自ら学び、健やかに成長できるよう、教職員一同力を尽くして参ります。どうぞよいお年をお迎えください。